

コラム17:実りの秋

朝晩めっきりと冷え込んできました。年のせいでしょうか、長年の市場勤めのせいでしょうか、朝は目覚まし時計をかけなくても、必ず5時から5時半頃に目が覚めます。夏はもっと早く目を覚まして、涼しいうちに仕事をしていたのですが、今は夜明けが遅いですからね。6時を過ぎてからでないと仕事にならんのですよ。そうそう、夏に子供たちに交じってやっていたラジオ体操も、あれから1日も休むことなく続けています。誰もいない広い原っぱで、たった一人で懸命にラジオ体操をしているオッサンの姿というのは、はた目にはどう映っているのでしょうかね。



体操をした後で私が行くのは、原っぱの端にポツンと一本だけ植えたイチジクです。3年位まえに3本植えたのですが、1本だけ順調に育って、高さ1m位ですが枝幅4m余りになり、小さいながらも、今年はいっぱい実をつけました。イチジクというのは沢山実をつけても、一度に熟さないのので、取れるのは1日3〜4個程度なのです。その上、この数少ない実を先に食す「けしからぬ輩」がいるのですよ。

まずは鳥です。それもカラスのような大きい奴のようです。現場をみていないので確信はできませんが、食った実の残り跡でわかります。せつかく実ったものを先取りされて、くやしいのでさっそく鳥ネットで木全体を覆いましたよ。まわりを石で押さえて、これでもう大丈夫と思ったら、まだ意外な敵がいたのです。



イチジクの実をガブリと真っ二つにして食っています。石で押さえたネットの隙間から入り込んで、鋭い歯でガブリと食べる奴ーこれはもう鳥などではありません。目撃をしていないのですが、「イタチのような動物」ではないか、と推測しています。以前近くで見たことがありますからね。沢山食べるわけではないので、今のところ放置していますね。

我が家の柿の方は、昨年が続いて豊作です。渋みのない富有柿の古木ですが、毎年寒肥をやる程度で、ろくに手入れなどしていないのですが、いっぱい実をつけてくれます。一昨年のような猿の被害もなく、順調に収穫しています。これはイチジクと違い、一気に食べ頃になるので、友人、知人、近所の方に「おすそ分け」商品ですね。



あと、おもしろいのはトーガンですね。これこそ何にもしなくても、見事に大きなウリのような実をつけてくれます。昨年になった大きく熟して白い粉をふいた実を取っておいて、畑の隅に置いておくだけーそれ以外に何もしなくても、翌年には大きなトーガンがゴロゴロと畑になっているのです。母に教わった農法ですが、こんなに手のかからない作物もないですね。豚肉とシイタケと干しエビを入れた、母のつくる「トーガン汁」は絶品。温まりますよ。

イチゴ栽培の方は、9月の終わりに高設栽培への定植を終え、順調に育っていますが、実りの時期はまだ先になりますね。現在、一部に花をつけたものが、チラホラ見えますから、うまいければ年末に赤い大きな実をつけてくれるかもしれません。とはいえ、それまでに、やることは限りなくあります。消毒、培養土の補充、灌水チューブの取り付け、マルチング作業、そして今は来年のもみ殻の置き場づくりをしています。イチゴ栽培というのは1年中休ませてくれないんですよ。それでも、正月に帰った孫娘が、むさぼるように喜んで食べてくれると、それまでの苦労を忘れてしまいますね。



「自分が作った物を、自分が取って食べる楽しみというのは、田舎に住んで、百姓をやっとらんと出来んことよのう」

(12・11・5)